

# 特色ある県立高校づくり懇談会

## 第1回目 配布資料

R5.5.30 時点

長野県教育委員会

高校教育課



# 特色ある県立高校づくり懇談会

## 第1回の論点

高校教育課

### テーマ これまでの高校とこれからの高校

- ・ 高校の役割（そもそも高校とは）
- ・ 普通科と専門学科のそれぞれの役割
- ・ 子どもや社会・地域の視点からの役割
- ・ これからの時代のあるべき姿
- ・ 求められる学び

### 第2回目テーマの予定

#### テーマ 県立高校の入口出口

- ・ 生徒や保護者の希望
- ・ 学校（教員）の思い
- ・ 県内産業界の要望
- ・ 上記を踏まえた県立高校のあるべき姿

# 県立高校に対する地域と学校の考え

高校教育課

## 地域の声

### <地域産業の担い手が足りない>

- ・高校で地元を支える人材を育成してほしい。
- ・地域の産業への就職を視野に入れた学科がほしい。

### <地域を元気にしたい>

- ・県外からの移住者が増えるような高校がほしい。
- ・卒業後、学生が地域に戻ってくるにはどうすべきか。

## 学校の思い

### <子どもの希望を叶えたい>

- ・学びをより充実させるため、地域資源を活用したい。
- ・生徒たちの希望に沿った進路を実現させてあげたい。

### <これから求められる高校とは・・・？>

- ・生徒に選ばれる学校にし、多くの高校を存続させたい。
- ・子どもたちは高校に何を求めているだろうか。



## 高校のあるべき姿は？

- ・高校が地域で果たすべき役割は何だろうか。
- ・いま求められる特色化って何だろうか。

# 参考資料

特色ある県立高校づくり懇談会 第1回

高校教育課

# 高校改革 ～夢に挑戦する学び～

## 『実施方針』における6つの基本方針

すべての生徒が自らの夢を見つけ、夢に挑戦する学びの実現をめざして

平成30年（2018年）9月策定

### 新たな学びの推進（学びの質を充実）

1

すべての高校が、これからの時代に必要とされる力を生徒に育む新たな学びに転換します。

#### (1)「探究的な学び」の推進

- 「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力等」や「主体性を持って多様な人々と協働的に学ぶ態度」を育む学びの推進

#### (2)学びを体系的に示す「3つの方針」の策定と運用

- 「3つの方針」をすべての県立高校で策定
  - 「生徒育成方針」
    - ・卒業までに生徒にどのような力をつけるのかを示す
  - 「教育課程編成・実施方針」
    - ・学校全体として教育活動をどのように展開するのかを示す
  - 「生徒募集方針」
    - ・入学を希望する生徒へのメッセージとして、どのような生徒の入学を待っているか、どのような学校でどのような学びができるかを示す
- 「生徒育成方針」の実効性を検証するフィードバックシステムの構築（卒業生進路先への調査等）

#### (3)入学者選抜制度の改革

2

夢に挑戦できる多様な学びの場、学びの仕組みを整備充実します。

#### (1)多様な学びの場の整備充実

- 総合学科高校、総合技術高校、多部制・単位制高校の充実・拡大、通信制の改革
- モデル校方式による新たな学びの場の創造

#### (2)多様な学びの仕組みの整備充実

- ICT活用の推進
- 高校間連携・高大連携の推進
- 特別支援教育の充実
- デュアルシステムの拡大等

3

新たな学びにふさわしい環境を整備します。

#### (1)学習環境・生活環境の整備

- 再編に係る施設・設備の整備
- 既存校も計画的に整備（空調設備・洋式トイレ等）

#### (2)ICT環境の整備と充実

#### (3)新たな学び推進のための人的配置

- ICT支援員等の外部人材・専門人材の活用

### 再編・整備計画（学びの基盤を整備）

4

さらなる少子化の進行に的確に対応します。

#### (1)都市部（近距離に複数校、学びの場が確保できる）

- 小規模校分立を回避、教育効果・投資効果を最大化
- 新しい時代にふさわしい新しい学校を再編・整備

#### (2)中山間地（学びの場の保障が必要）

- 魅力的な学びの場の創造に向けて、地域と協力して最大限の努力

5

多様な学びの場を全県に適切に配置します。

#### (1)配置の基本的な考え方

- 地域全体及び県全体の高校の将来像を総合的に検討

#### (2)校種ごとの配置の考え方

- 普通高校、定時制高校 旧12通学区を基本に配置
- 専門高校 旧12通学区を基本に、より広域にも配置
- 総合学科高校 4通学区を基本に配置
- 多部制・単位制高校 4通学区を基本に配置
- 通信制高校 東北信・中南信への配置を基本に、サテライト校の配置等も含めて検討

#### (3)モデル校の配置の考え方

- モデル校の特性と全県のバランスを考慮して配置

#### (4)広域の検討が必要な場合の配置の考え方

- 地域の意見も聞きながら県教育委員会が広域的・多角的に判断

#### (5)再編こともなう校地・校舎等の後利用の考え方

- 地域の意見も聞きながら有効活用できるように検討

6

地域での検討を踏まえて「再編・整備計画」を確定し、再編を実施しない既存校も含めて計画的に整備を進めます。

#### (1)地域での検討

- 「高校の将来像を考える地域の協議会」を設置

#### 「高校の将来像を考える地域の協議会」

- 旧通学区内の将来を見据えた高校の学びのあり方と具体的な高校の配置について検討
- 県教育委員会に対して意見・提案

#### (2)「再編・整備計画」の確定

- 「協議会」の意見提案を踏まえ、全県の視野に立って確定

# 第4次長野県教育振興基本計画の概要

## 第1編 計画策定の基本的な考え方

<b>策定の趣旨</b> 教育を取り巻く環境変化や新たな課題が明らかになる中、改めて本県の教育政策の方向性を示すため第4次計画を策定する。	<b>計画の性格</b> ・教育基本法に基づく本県教育の振興に関する基本的な計画 ・長野県総合5か年計画に対応する教育分野の個別計画	<b>計画の期間</b> 2023年度～2027年度の5年間
---	---	--------------------------------

## 第2編 長野県教育を取り巻く状況等

社会背景・情勢	現状と課題	今後の方向性	目指す姿	政策の柱	政策及び主な施策（案）	成果指標
---------	-------	--------	------	------	-------------	------

<b>VUCA（変動・不確実・複雑・曖昧）の時代</b> ・コロナ禍による学校生活の変化（臨時休業・分散登校等） ・地球温暖化による気象災害の多発 ・様々な分野でのグローバル化の進展 ・国際情勢の不安定化(ウクライナ等) ・Society5.0時代の到来（一人一台タブレット端末整備等）
--

<b>多様化の時代</b> (数値は長野県の状況) ・発達障がいの診断等のある児童生徒 小中：H29:6,980人→R4:9,786人 ・通級等指導教室利用児童数(小学校)の増加 H29:495人→R3:769人 ・不登校児童生徒の増加(1,000人当たり) 小 H29:6.4人→R3:15.6人 中 H29:31.9人→R3:55.8人 高 H29:11.1人→R3:14.9人 ・小中学校の就学援助受給率の上昇 H29:11.20%→R3:11.40% ・通信制高校生徒数の増加 H29:4,306人→R4:7,048人
---

<b>人口減少・少子高齢化時代</b> (数値は長野県の状況) ・子ども数の減少(0歳～18歳) H29:342,702人→R4:307,339人(△35,363人) ・教員数(公立)の減少 小中:H29:11,801人→R4:11,607人 高:H29:3,776人→R4:3,532人 ・学校数(公立)の減少 小:H29:366→R4:355 中:H29:187→R4:185 高:H29:83→R4:82 ・教員志願者数の減少 H29:2,551人→R4:1,949人 ・平均寿命の伸長 男性:H29:82.24歳→R2:82.65歳 女性:H29:88.17歳→R2:88.95歳 ・高齢化率の上昇 H29:31.1%→R4:32.7%
---

・知識やスキルの習得に偏重した教育 ・新しい価値や時代を創造する資質能力の必要性の高まり ・経済格差による学びの機会の格差 ・学校以外を居場所とする子どもの学びの場充実のニーズ ・学校が担う分野・機能の多様化、業務量の増大 ・人間関係の固定化 ・リアルな体験活動の減少 ・生涯にわたって誰もが活躍できる場の不足 ・人とのつながりの希薄化 ・人口減少地域における学びの質の維持困難
--

・探究を中核とした学校づくり ・生涯にわたって主体的に学び続け探究し続ける力の育成 ・デジタルの力も最大限活用した個別最適な学習環境の創出 ・児童の権利に関する条約やこども基本法の理念を大切にしたい子どもの権利・安全の保障 ・障がいのある人も無い人も共に尊重される一人ひとりのニーズにあわせた公正な学びの提供 ・学校が果たしてきた多様な機能を役割分担 ・多様な他者との対話と協働 ・様々なリソースを活用した学校の地域拠点化 ・専門性を持った多様な教職員集団の形成 ・多様な体験機会の充実 ・地域コミュニティの基盤強化
--

<b>個人と社会のウェルビーイングの実現</b> ※一人ひとりの「好き」や「楽しさ」、「なぜ」をことごとん追求できる「探究県」長野の学び
---

<b>個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実</b> 一人ひとりが主体的に学び他者と協働する学校をつくる 一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくる 生涯にわたり誰もが学び合える地域 文化芸術・スポーツの身近な環境を整え、共感と交流が生まれる機会をつくる
--

<b>デジタルの力を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実</b> (協働的な学び・探究的な学びの充実、多様な認知・発達特性に応じた学びの充実、障がい特性に応じたデジタルを活用したサポート体制の構築、バーチャルな教育空間の活用研究、高校オンライン授業の単位認定研究、ICT機器の先進的な活用実践、中山間地域等の遠隔授業支援) <b>学習者主体の学校づくりに向けた魅力化・特色化</b> (学校における個別最適な学びの具体化の研究、学校長の裁量拡充、生徒主体の科目選択の実現、私立学校の設置運営への助言等を通じた特色ある学校づくりの推進、30人規模学級の更なる少人数化検討、地域連携コーディネーター設置検討、アートの手法を活用した学びの普及拡大) <b>探究を核とした学びを推進するための教員自らが学ぶ研修の充実、教職員の資質向上</b> (民間等と連携した「探究」研修プログラム開発、国内外の新たな知見や視点が得られる研修、非違行為根絶に向けた取組の実施) <b>教員のウェルビーイング向上のための働き方改革</b> (教員配置の充実、サポート人材拡充、外部人材活用、業務のDX化、【再掲】地域連携コーディネーター設置検討、【後掲】学校部活動の地域クラブ活動への移行支援、健康相談の充実) <b>これからの時代に向けた高校改革・学びの改革の推進</b> (再編・整備、学びの改革(文理融合推進、キャリアデザイン力育成、金融教育充実等)、WWLコンソーシアム構築の推進、外国語教育の充実、海外留学支援、長野県スクールデザイン(NSD)プロジェクトによる新しい学びにふさわしい学習空間整備、県立高校と高等教育機関との連携推進、幼保小の連携強化・接続の充実) <b>信州教育の魅力向上・発信</b> (教員志願者確保、生徒の全国募集、信州自然留学(山村留学)の取組推進)
<b>子どもの権利・安全の保障</b> (人権尊重の視点に立った学校運営、相談支援の充実、不登校児童生徒へのオンライン学習支援、長期入院生徒へのオンライン学習支援、日本語指導教員・相談員の配置や日本語学習コーディネーターの派遣、経済状況等に左右されない学びの機会の保障、不測の事態における学校の安全対策強化、家庭・地域と連携した食育の推進、子どもの自殺対策強化) <b>多様な学びの場・機会の充実や民間との連携による個別最適化</b> (夜間中学・不登校特例校設置検討、フリースクール等学校外の学びの場との連携、信州型フリースクール認証による支援強化、【再掲】バーチャルな教育空間の活用研究、【再掲】信州自然留学(山村留学)の取組推進) <b>インクルーシブな教育の一層の推進</b> (インクルーシブな教育推進のための学びのあり方を研究、【再掲】多様な認知・発達特性に応じた学びの充実、通級指導による学びの保障、副学籍の取組推進、NSDプロジェクトによる学びに合った学習空間の創出、特別支援学校における子どもの豊かな育ちに向けたポジティブな行動支援の展開、【再掲】障がい特性に応じたデジタルを活用したサポート体制の構築) <b>一人ひとりの特性に応じた学びの追求</b> (【再掲】多様な認知・発達特性に応じた学びの充実、【再掲】障がい特性に応じたデジタルを活用したサポート体制の構築、【再掲】特別支援学校における子どもの豊かな育ちに向けたポジティブな行動支援の展開) <b>福祉分野等との連携による困難や悩みを抱える子どもへの支援</b> (スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー体制充実、生活困窮家庭の子どもへの学習・生活支援、学校施設の有効活用検討、子ども支援センター等との連携強化、SOSの出し方教育推進による自殺リスクの高い子どもへの支援強化)
<b>共学共創による地域づくり</b> (NSDプロジェクトによる協働的な共創空間の創出、共学共創プラットフォームの構築、信州型コミュニティスクールの充実、【再掲】外部人材活用、【再掲】地域連携コーディネーター設置検討、【後掲】学校部活動の地域クラブ活動への移行支援) <b>生涯を通じて学ぶことができる環境づくり</b> (高校の地域拠点化、大学等の立地促進、社会教育施設のデジタル基盤強化、電子図書館サービスの充実、働く・子育て世代などの学び直し場の拡充、環境教育の推進)
<b>文化芸術、スポーツに親しむことができる機会を充実</b> (新たな県史編さんへの着手や県立歴史館の機能充実、図書館・歴史館等所蔵資料等デジタル化、信州アーツカウンシルによる文化芸術活動への支援強化、セイジ・オザワ 松本フェスティバル共催等による世界水準の芸術に触れる機会の創出、地域スポーツクラブ活動体制の整備支援、学校部活動の地域クラブ活動への移行支援) <b>「信州やまなみ国スポ・全障スポ」の成功に向けた準備の実施、競技力向上</b> (準備(実行)委員会による準備・事業の実施、大会の県民運動の推進、子どもから大人まで一貫した指導体制の構築、医科学サポート体制の充実によるアスリート支援と県内全域への普及促進)

<b>計画の実効性の確保</b> ・毎年度予算編成に併せて具体的な施策を公表 ・毎年度政策の進捗状況を評価 ・学校をはじめ様々な学びの場で活用できるコンセプトブックや動画を作成 ・状況に応じて計画を見直し ・定量的な「客観的指標」に加え、幸福感や自己実現・自己受容、協働性・向社会性といった主観に基づく要素の測定を「主観的指標」として設定し、ウェルビーイングの実現度合いを客観的に把握
---

# 「個人と社会のウェルビーイングの実現」～一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求できる「探究県」長野の学び～

## ○目指す姿への想い

- ますます変化が激しく予測が困難で唯一の正解が無くなっていくこれからの時代においては、一人ひとりが、他の誰でもない自分の個性や可能性を認識するとともに、多様な他者を尊重し、協働しながら持続可能な社会を創っていくことが求められています。そのことにより、多様な個人がそれぞれの幸せや生きがいを実感し、地域や社会も豊かで持続可能なものになっていく、「個人と社会のウェルビーイング」が実現していくと考えます。
- 教育は、「今」を積み重ねた先にある「未来」を創造する営みであり、未来とは希望です。未来を担う子どもたちのみならずすべての人が、今、そして将来にわたって、学ぶことそのものに喜びを感じ、自分の学びや人生、そして社会変革の当事者になっていく、そのような学びの場を創ることが、個人と社会のウェルビーイングの実現につながります。すべての学びの場を、子どもも大人も共に学び、ウェルビーイングを追求し実現できる場にしていきたい、そのような思いから目指す姿を定めました。

## ○「ウェルビーイング」について

- 「ウェルビーイング」とは「身体的・精神的・社会的に良い状態にあること」をいいます。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含み、また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念です。日本では、自尊感情や自己効力感の高さといった、個人が獲得・達成する能力や状態に基づく獲得的要素に加え、利他性、協働性、社会貢献意識といった、人とのつながり・関係性に基づく協調的要素が、人々のウェルビーイングの実現に重要な意味を持っています。「自分もみんなも幸せに」と考える傾向のある日本には、個人が他者や地域と関わりながら、個人と社会のウェルビーイングを共に実現していくことができる土壌があると言えます。（中央教育審議会「次期教育振興基本計画について(答申)」(令和5年3月8日)から一部引用）
- 個人のウェルビーイングは、多様な個人の存在やいのち、人権や個性が当たり前で尊重される中で、自分らしく生きることにより実現し、社会のウェルビーイングは、一人ひとりが身に付けた知識や技術を最大限に活用し、自ら主体的に考え、他者と協働しながら、当事者（自分ごと）として社会を創り上げていくことにより実現すると考えます。

## ○「探究」「探究県」について

- 個人と社会のウェルビーイングを実現するためには、自ら課題や問いを見出し、その解決を目指して、仲間と協働しながら新たな価値を創造したり、一人ひとりが自分の“好き”なこと、“楽しい”こと、“なぜ”と思うことに浸り追求する「探究」が重要です。そのためには、人が生まれながらにして持っている「探究心」を学校においても社会に出てからも絶やさず伸ばし続けること、学校が探究する楽しさ、ワクワク感が実感できる場所であることが大切です。学びを、知識やスキルの習得に偏ったものから、探究し続ける中で、知識やスキルを獲得し、他者と協働しながら自分にしかない「知の体系」を構築していくものに転換していかなければならないと考えます。学校をはじめとした様々な学びの場が、対話や他者を介して自分の良さに気づき、探究を深める大切な場所であるという共通認識のもと、教員をはじめとした大人も子どもたち同様、「途上にある者」として、また、「共に学ぶ者」「共同探究者」として、生涯にわたって学び続け、探究し続けることが求められています。
- 公民館や図書館の数が多く、「全人教育」「子どもたちへの信頼に基づく教育」「学習者主体の教育」を大切にしてきた長野県には、すべての世代が主体的・協働的に学ぶ、「教育県」としての風土と県民性があります。これらの伝統を継承し、子どもも大人もこれからの時代を自分らしく生き、共に学び、探究し、自分たちが望む未来を実現していく、そのような長野県でありたいという願いを込め、「探究県」としました。

## 目指す姿を実現するための政策の柱

### ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～

#### ◆一人ひとりが主体的に学び他者と協働する学校をつくる

「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に推進され、すべての児童生徒、教職員が共に自分にとって居心地のよい活力に満ちた学校をつくり、その中で、自ら問いを立て、主体的に課題解決に向かう力が育まれている。

#### ◆一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくる

一人ひとりが尊重され、安全安心な学びの環境の中で、多様な特性を持った子どもたちが互いを認め合い、持てる力や可能性を最大限発揮している。

#### ◆生涯にわたり誰もが学び合える地域の拠点をつくる

共学共創によって、学校をはじめ多くの主体が地域の学びのハブとして社会とシームレスになり、地域の中で、様々な価値観を尊重し合い、多様な学びや創造が循環している。

#### ◆文化芸術・スポーツの身近な環境を整え、共感と交流が生まれる機会をつくる

歴史や特色のある文化が継承され、それらに触れる機会が充実するとともに、多くの県民が文化芸術・スポーツに親しむことにより、地域が活性化し、一体感が醸成されている。



# 長野県内中学校卒業生数の予測

高校教育課  
(単位：人)

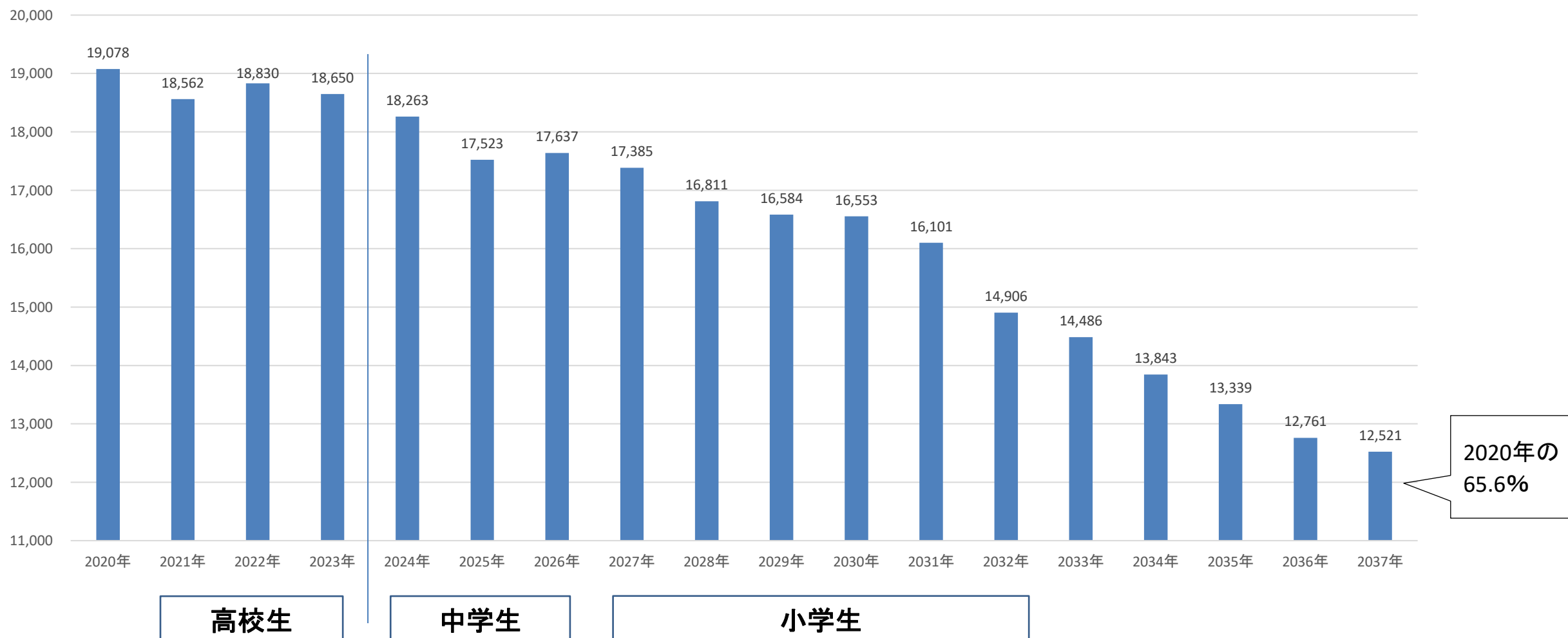
	2020年 R2	2021年 R3	2022年 R4	2023年 R5	2024年 R6	2025年 R7	2026年 R8	2027年 R9	2028年 R10	2029年 R11	2030年 R12	2031年 R13	2032年 R14	2033年 R15	2034年 R16	2035年 R17	2036年 R18	2037年 R19	2020年と 2037年 との増減	2020年に対 する2037年 の比率
全県	19,078	18,562	18,830	18,650	18,263	17,523	17,637	17,385	16,811	16,584	16,553	16,101	14,906	14,486	13,843	13,339	12,761	12,521	-6,557	65.6%
前年度比 増減	—	-516	268	-180	-387	-740	114	-252	-574	-227	-31	-452	-1,195	-420	-643	-504	-578	-240		

(注1) 2020年、2021年は前年度学校基本調査による数。

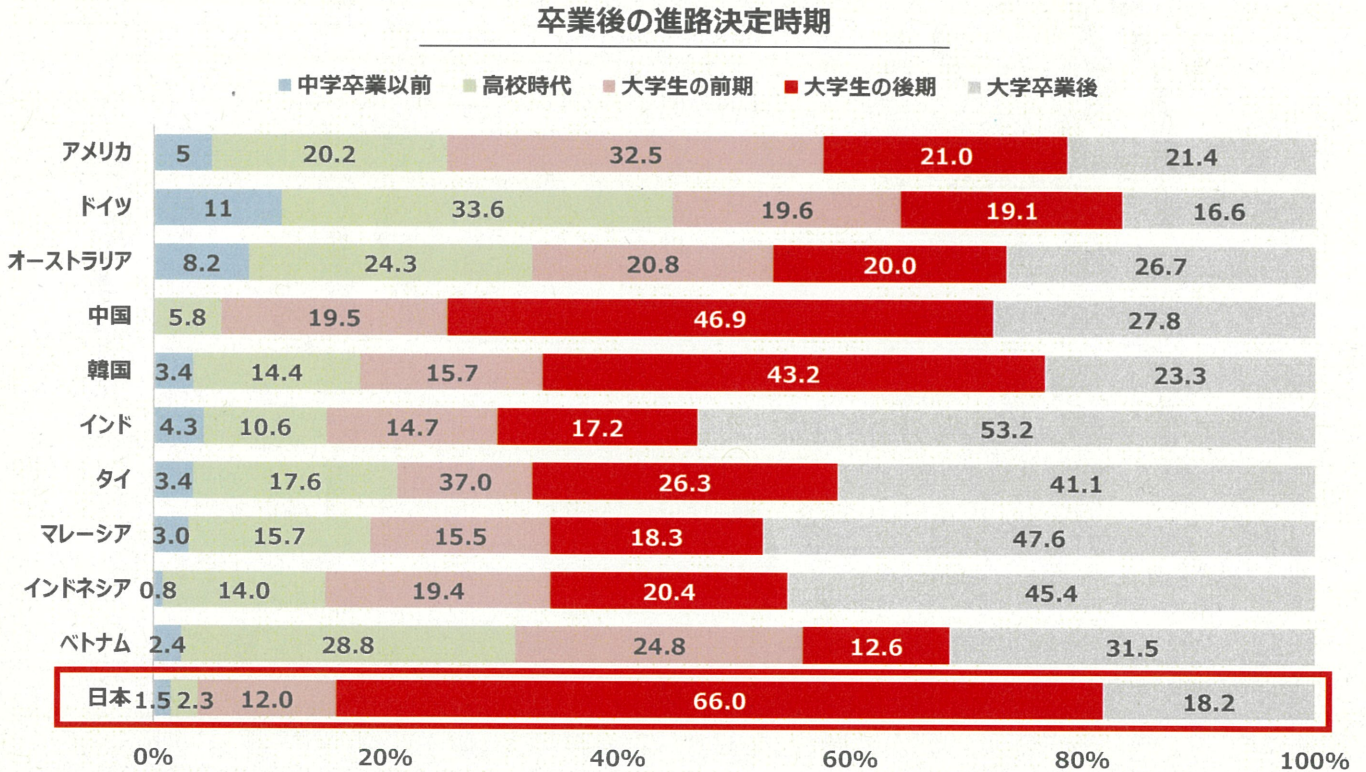
(令和4年5月1日)

(注2) 2022年～2031年までは、2022年度学校基本調査による数。2032年以降は、2022年度長野県人口異動調査（令和4年5月1日）による数。

単位：人

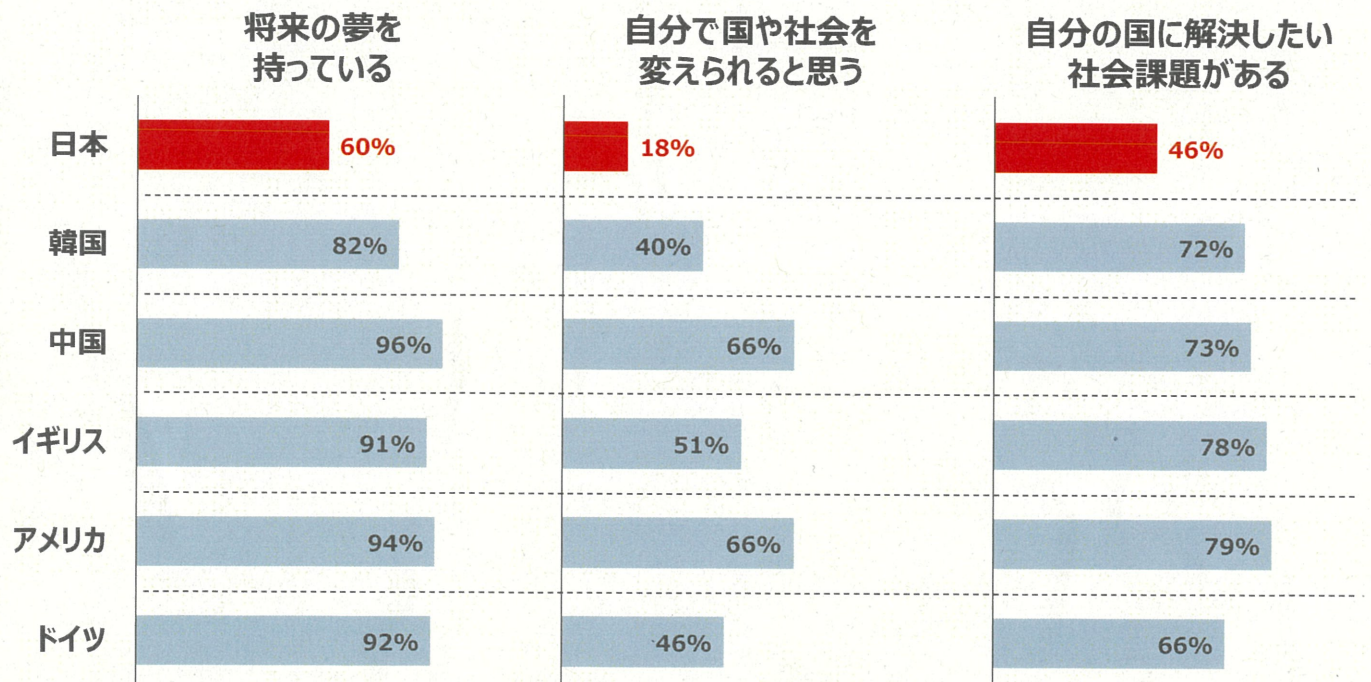


## 日本の学生は、「大学生後期」に進路を決める者の割合が高い。



(出所) リクルートワークス総研「Global Career Survey」を基に経済産業省が作成。

## 日本の18歳の「社会への当事者意識」は低い。これが実態なら、 学校教育が「目指してきた理想」と「今の現実」の差をどのように埋めるのか。



(出所) 日本財団「18歳意識調査 第20回(国や社会に対する意識)」(2019年)を基に経済産業省が作成。

# 就学前から高等教育までの体系図

高校教育課

3才 4 5 6才 7 8 9 10 11 12才 13 14 15才 16 17 18才 19 20 21 22才 23 24才 25 26 27 (年度末年齢)  
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 (学年)

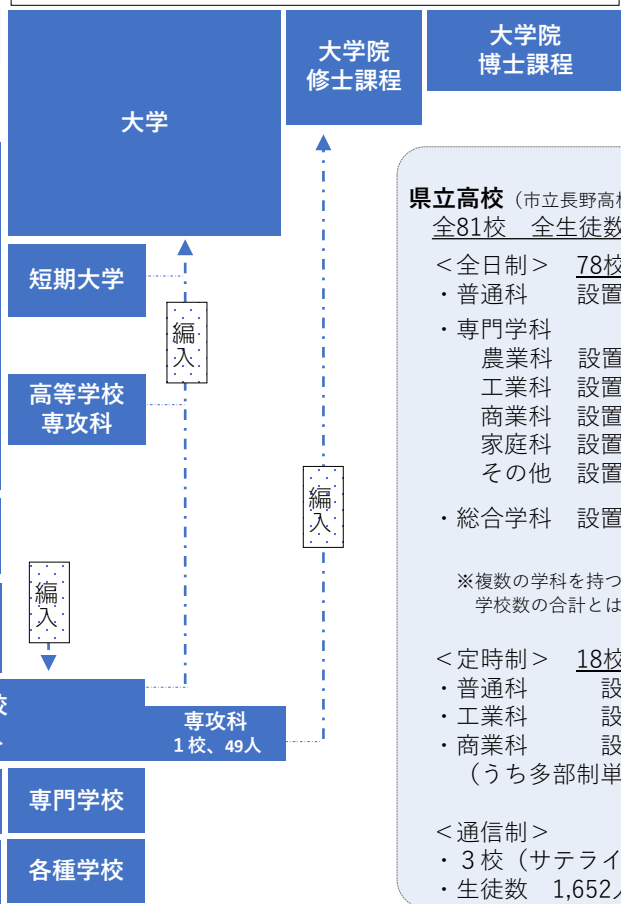
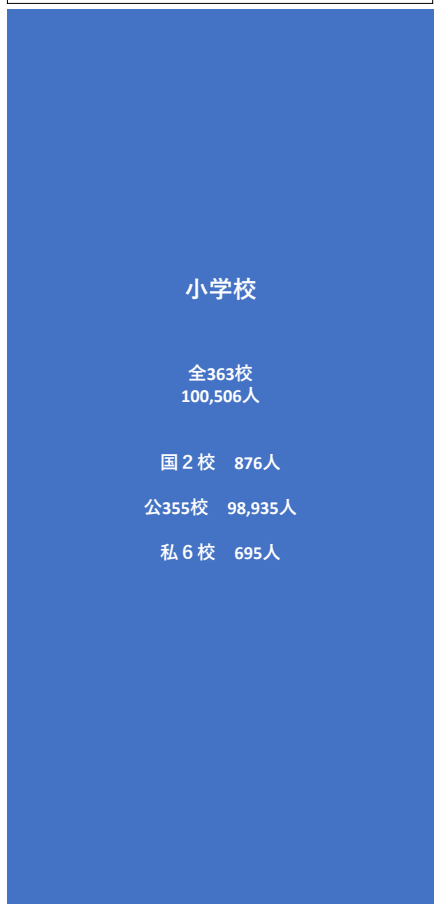
義務教育

就学前

初等教育

中等教育

高等教育



**県立高校** (市長野高校含む) (R4)  
 全81校 全生徒数42,894人

<全日制> 78校

- ・普通科 設置55校 25,342人(63.9%)
- ・専門学科 11,636人(29.4%)
  - 農業科 設置9校 2,747人
  - 工業科 設置10校 3,718人
  - 商業科 設置10校 2,884人
  - 家庭科 設置3校 422人
  - その他 設置14校 1,865人
- ・総合学科 設置6校 2,654人(6.7%)

全 39,632人

※複数の学科を持つ学校があるので、  
 学校数の合計とは一致しない

<定時制> 18校

- ・普通科 設置15校 1,397人
- ・工業科 設置4校 175人
- ・商業科 設置1校 38人

(うち多部制単位制高校3校)  
 全 1,610人

<通信制>

- ・3校 (サテライト含む)
- ・生徒数 1,652人



**特別支援学校 (R4)**  
 県立18校、国立1校、市立1校 合計生徒数2,649人

※数字はR4年度

**県内大学・短大 (R4)**  
 国1校、県2校、公2校、私11校  
 ※県内18歳人口の県内大学入学者の割合  
 R3実績 20.7% (全国45位)

# 令和3年度公立高等学校卒業者の進路状況について

学びの改革支援課

令和4年3月末現在

年度		卒業者 総数	四年制大学			短期大学	大学短大 進学	専修学校 等(海外 進学者含 む)	就職	予備校	家居等 (自宅学習 者含む。)	進学努力 継続者	
			国公立	私立	合計①	②	①+②						
令和 元年度	全 日 制	普通科	9,557	1,499	3,259	4,758	671	5,429	2,035	977	804	312	976
		職業科	3,517	41	532	573	231	804	1,079	1,564	16	54	24
		総合学科 特色学科	1,568	185	452	637	118	755	394	281	76	62	107
	定時制	418	1	23	24	24	48	88	209	2	71	9	
	合 計 (%)	15,060 (100)	1,726 (11.5)	4,266 (28.3)	5,992 (39.8)	1,044 (6.9)	7,036 (46.7)	3,596 (23.9)	3,031 (20.1)	898 (6.0)	499 (3.3)	1,116 (7.4)	
令和 2年度	全 日 制	普通科	9,040	1,593	3,122	4,715	636	5,351	1,790	886	740	273	883
		職業科	3,466	53	542	595	242	837	1,119	1,438	8	64	24
		総合学科 特色学科	1,593	223	470	693	117	810	406	263	72	42	91
	定時制	431	2	13	15	28	43	112	183	2	91	9	
	合 計 (%)	14,530 (100)	1,871 (12.9)	4,147 (28.5)	6,018 (41.4)	1,023 (7.0)	7,041 (48.5)	3,427 (23.6)	2,770 (19.1)	822 (5.7)	470 (3.2)	1,007 (6.9)	
令和 3年度	全 日 制	普通科	8,779	1,735	3,164	4,899	533	5,432	1,729	738	636	244	750
		職業科	3,365	49	558	607	263	870	1,056	1,364	13	62	27
		総合学科 特色学科	1,555	241	473	714	103	817	397	225	60	56	77
	定時制	427	1	25	26	28	54	111	179	1	82	2	
	合 計 (%)	14,126 (100)	2,026 (14.3)	4,220 (29.9)	6,246 (44.2)	927 (6.6)	7,173 (50.8)	3,293 (23.3)	2,506 (17.7)	710 (5.0)	444 (3.1)	856 (6.1)	
令和3年度卒業者 対前年(%)増減			1.4	1.4	2.8	-0.4	2.3	-0.3	-1.4	-0.7	-0.1	-0.8	

(注) 1 「進学努力継続者」は、予備校進学者及び「家居等」のうち自宅学習者の合計

2 全日制の「特色学科」は、理数科、国際教養科、スポーツ科学科、音楽科、探究科、学究科、国際観光科

## 《県内・県外進学・就職者数》

	四年制大学			短期大学			専門学校等			就職		
	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計
元年度	1,202	4,790	5,992	717	327	1,044	1,791	1,805	3,596	2,753	278	3,031
%	20.1%	79.9%		68.7%	31.3%		49.8%	50.2%		90.8%	9.2%	
2年度	1,376	4,642	6,018	714	309	1,023	1,857	1,570	3,427	2,522	248	2,770
%	22.9%	77.1%		69.8%	30.2%		54.2%	45.8%		91.0%	9.0%	
3年度	1,416	4,830	6,246	688	239	927	1,837	1,456	3,293	2,298	208	2,506
%	22.7%	77.3%		74.2%	25.8%		55.8%	44.2%		91.7%	8.3%	

## 中学生・高校生のニーズ

高校教育課調べ

- ・中学生のR2年度進路状況：進学99% 就職1%
- ・中学生進路希望調査(H30～R4平均) 普通科：職業科≒7：3
- ・定員充足率(H29～R3平均) 普通科：専門学科：総合学科＝96.8%：95.8%：96.7%

### ・高1進学意識調査(R4.8) 「高校選択の際大切にしたこと」

(高1全生徒対象 回答率79.0% 回答数11,032件 複数回答)

#### 普通科

- 1 雰囲気が良い(38%)
- 2 自宅から近い(37%)
- 3 合格できそう(35%)
- 4 大学進学に有利(27%)
- 5 授業についていける(24%)

#### 農業科

- 1 特色があるから(48%)
- 2 自宅から近い(34%)
- 3 希望職種に関連(31%)
- 4 雰囲気が良い(27%)
- ⋮
- 6 合格できそう(25%)

#### 工業科

- 1 希望職種に関連(48%)
- 2 特色があるから(40%)
- 3 就職に有利(40%)
- 4 自宅から近い(32%)
- 5 合格できそう(20%)

#### 商業科

- 1 特色があるから(37%)
- 2 就職に有利(36%)
- 3 自宅から近い(35%)
- 4 雰囲気が良い(28%)
- 5 合格できそう(27%)

→ 職業科については、学校独自の特色や就職先を意識して高校を選ぶ生徒が多い

## 保護者のニーズ

(県内800人以上回答のアンケート)

### 進学させたい学科

- 子どもの希望(55%)
- 普通科(23%)
- わからない(6%)

※単一回答

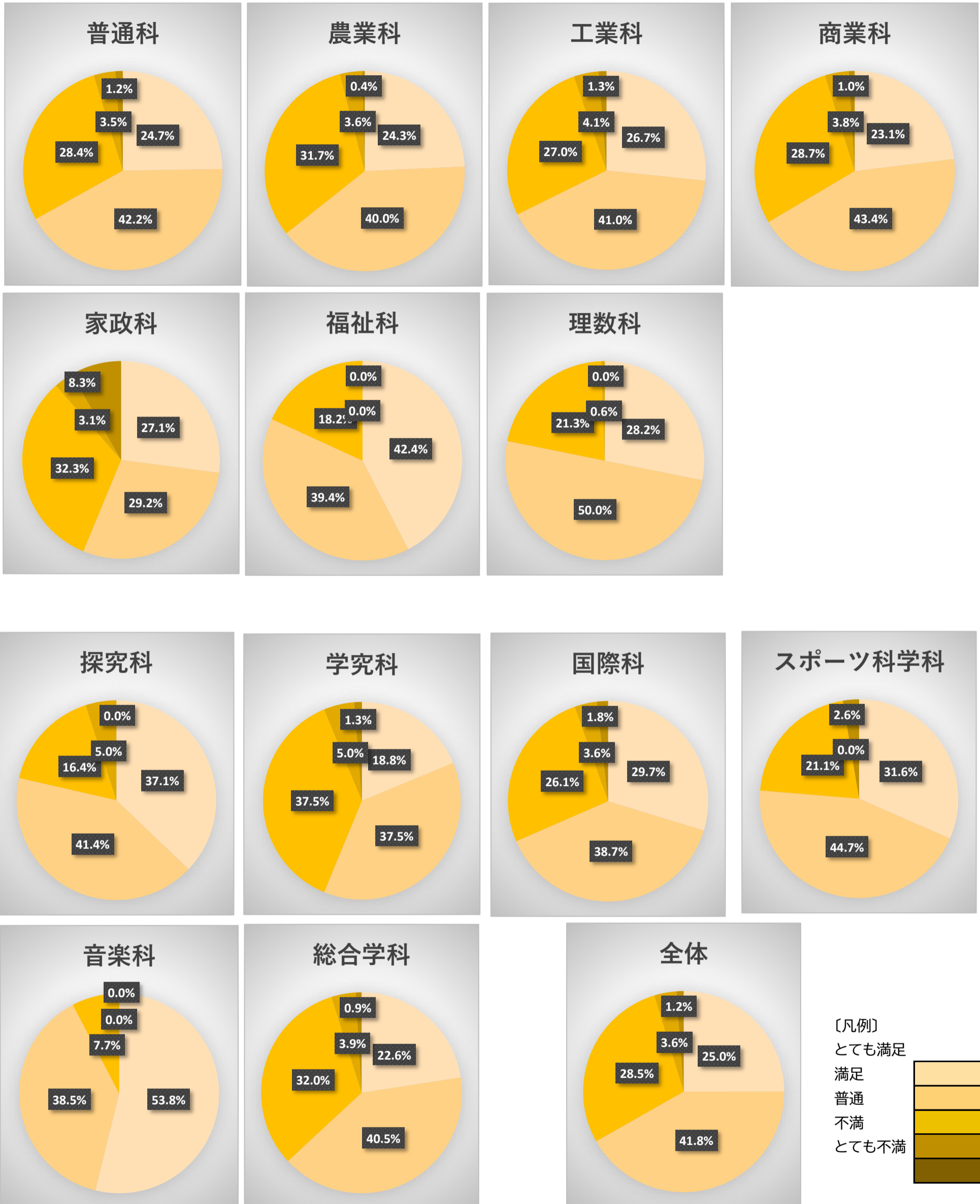
### 高校選択で重視したこと

- 雰囲気 (67.5%)
- 将来の仕事関連 (54.4%)
- 自宅から近い (52.7%)
- 特色がある (48.3%)
- 大学進学に有利 (42.2%)
- 授業についていける (34.2%)

※複数回答

高1 進学意識調査 (R4.8) 学科別の満足度

高校教育課



## 高1進学意識調査 (R4.8) 満足度を左右する要因

高校教育課

項目5 満足度を左右する要因	度数	%
友人関係	4769	43.2%
クラスの雰囲気	4568	41.4%
部活動	4156	37.7%
授業の内容(カリキュラム)	3233	29.3%
学校の校風・雰囲気	2955	26.8%
高校卒業後の進路	1491	13.5%
校則	1449	13.1%
通学時間・距離	1340	12.1%
先生	1160	10.5%
課程の種類(全日制・定時制・通信制)	959	8.7%
施設・設備	608	5.5%
制服	591	5.4%
立地や環境	344	3.1%
探究的な学び	235	2.1%
自治・生徒会活動	205	1.9%
家庭の考えや協力	201	1.8%
メンタルサポート	166	1.5%
ICT環境	158	1.4%
少人数教育	124	1.1%
SDGsなどの社会課題への取組	78	0.7%
学費等の経済的負担	69	0.6%
地域等との連携	39	0.4%
寮や下宿	23	0.2%
その他(自由記述)	122	1.1%



## 長野県産業界が高卒就職者に求める人材像に関する ヒアリング まとめ

高校教育課

- 1 目的 新たな県立高校の学びに向け、各産業界が、10年後の高卒就職者に求める人物像やスキルについて把握すること
- 2 実施場所 県内10圏域ごと実施
- 3 日程 令和4年8月～10月
- 4 ヒアリング対象者 計94名  
様々な産業界（農業・林業・建設・ものづくり・観光業など）の代表者（団体の会長、企業の社長など）
- 5 ヒアリング内容 概要は以下のとおり

### ○産業界の現状

人材に関する課題	人材不足（質・量）。後継者がいない。
	人材が高齢化。若い人がいないと会社が存続しない
	毎年採用する余力がない企業も。新規高卒採用が少ない
採用に関する課題	地域によっては、大企業が少なく、採用募集がない年もある
	若い優秀な人材は大企業へ行ってしまう
	高校生には専門性だけでなく、人間的な能力が備わっていてほしい

### ○高校生に求める能力

#### （1）各産業に共通する要望

人間力	自分で課題を見つけ、解決できる力
	豊かな感性
	コミュニケーション能力
	好奇心、チャレンジ精神
	変化に対応できる人材、柔軟な思考力、創造する力、探求する力
	自立性、まじめ、情熱、一生懸命
	タフな人材、芯の強い人材
	社会常識、基礎学力や一般教養
技術的な能力	地域に溶け込める人材
	変化の激しい時代に対応できる能力
	多面的な職業能力
	DXに対応できる教育を（基本的なパソコン技術含む）
	社会や経済の仕組み理解
その他	アイディアを出し続けられる人
	新卒がほしい
	地域理解
	地域のリーダー、外国人をまとめる現場のリーダー



## (2) 業種別の要望

農業	人生のどこかで農業に触れることが大事
	これからの農業は、工業的、科学的な知識が必要
	農業経営者になるには普通科の学びが大切（農業一辺倒はダメ）
	育てる余裕がないので、即戦力が欲しい
	優秀な人材は他産業へ行ってしまう
	農業でも生きていける（食べていける）体制を
	親の農業と農業科の学びは異なる
	技術職が減少（農機具の修理やガスの保安など）
林業	林業の学校を残してほしい
	高卒では技能職がない。即戦力は林業大学校に求めている
	林業未経験者でも採用し、育てている
	木の選別や、GPS技能の習得を求む
建設	大卒は大手、中小は高卒に期待
	専門学科の生徒が欲しい
	社会人としての幅広い勉強が必要
	部活のように1つのものをやり遂げた体験を
	グループで協働するというのを教えてほしい
ものづくり	中小企業は毎年採用不可
	企業や独立できる人材育成を
	行動力ある人材を（現場で手が出せることが大切）
	（システム会社から）もう少し踏み込んだ教育を
	あるものに特化した高校があってもいいのでは。
観光	高卒応募がない
	地元、地域理解の推進も
	高校に山岳科、観光科が欲しい
	尖った個性を

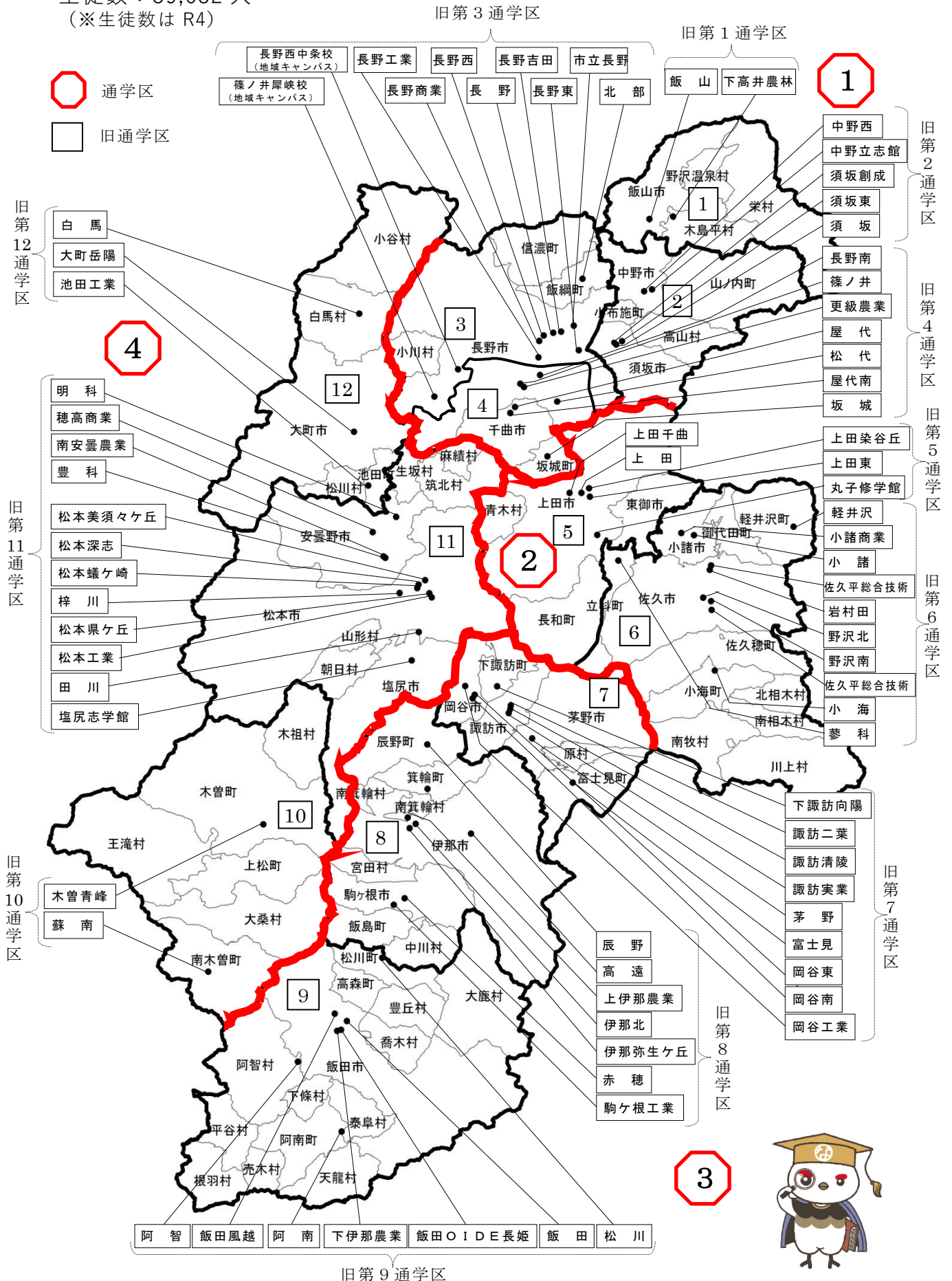
### ○その他の要望

- ・県外からも人を呼んでほしい
- ・起業できる環境を
- ・高校生が納得した状態で就職できるようにしてほしい（離職を防ぐ）
- ・入学後も転科できる学校にして、卒業後の道が選択できるように
  - ・子ども主体だけでなく、人材育成的な県の戦略を出してほしい

# 公立高等学校の配置図(全日制課程) R5

校数：81校  
 生徒数：39,632人  
 (※生徒数はR4)

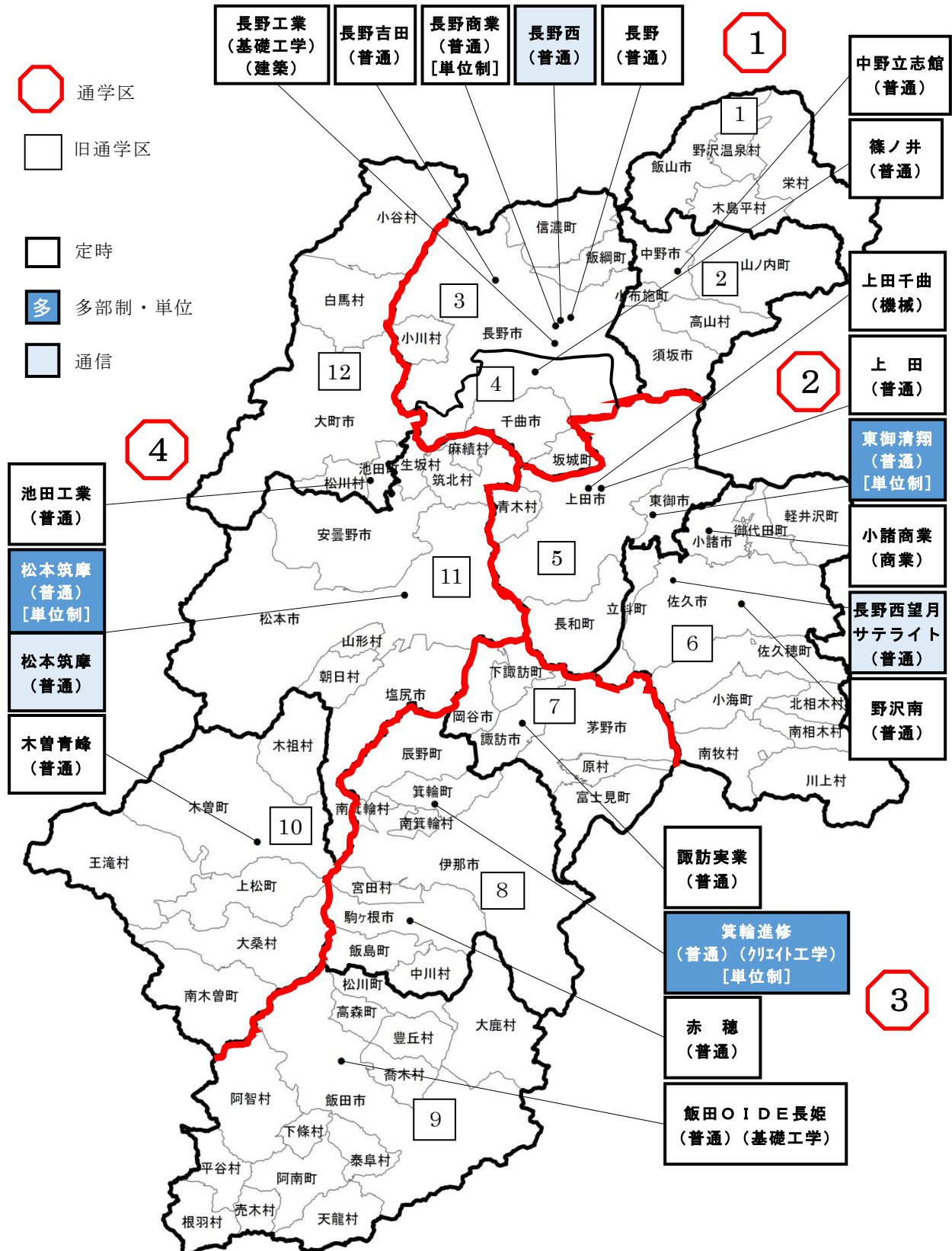
高校教育課



# 公立高等学校の配置図(定時制課程、通信制課程) R5

高校教育課

校数：21 校  
 生徒数：3,262 人  
 (※生徒数は R4)



※定時制課程：18校 通信制課程：3校 (サテライト含む)

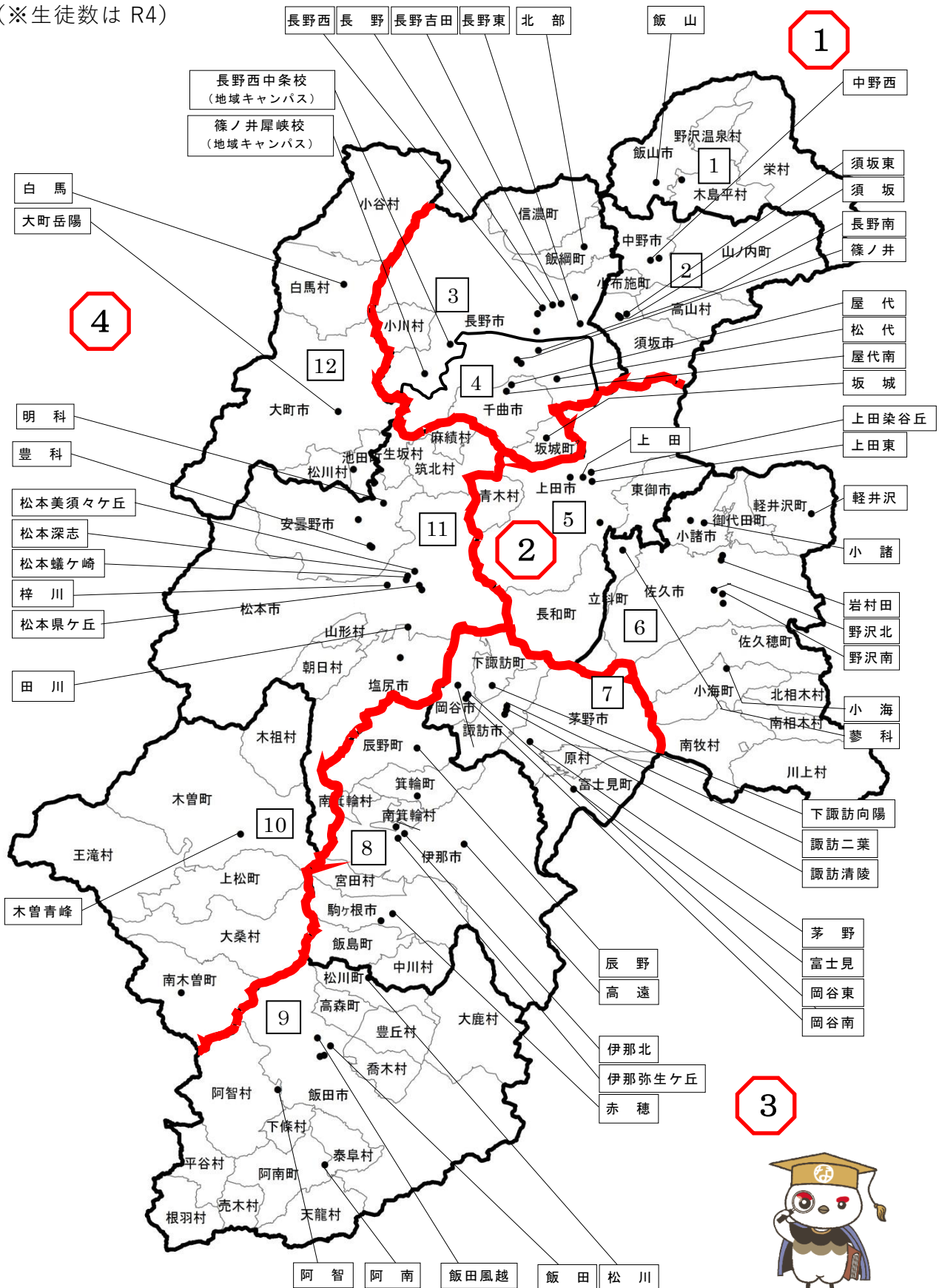
※多部制・単位制課程：3校

# 普通科を設置している公立高等学校(全日制課程) R5

高校教育課

校数：55 校  
 生徒数：25,342 人  
 (※生徒数は R4)



○ 通学区 □ 旧通学区

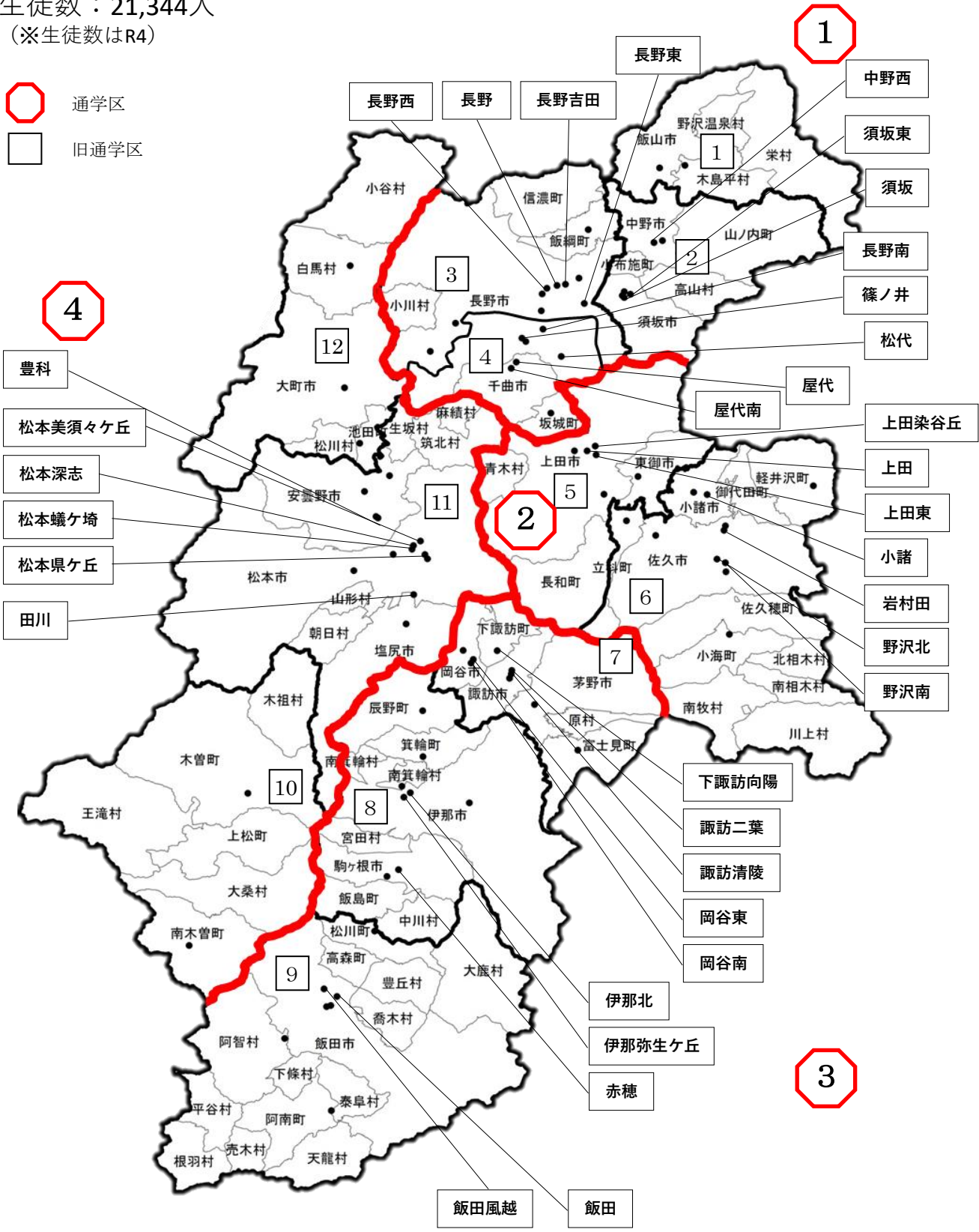


# 普通科を設置している公立高等学校(都市部に存立) R5

高校教育課

校数：35校  
 生徒数：21,344人  
 (※生徒数はR4)

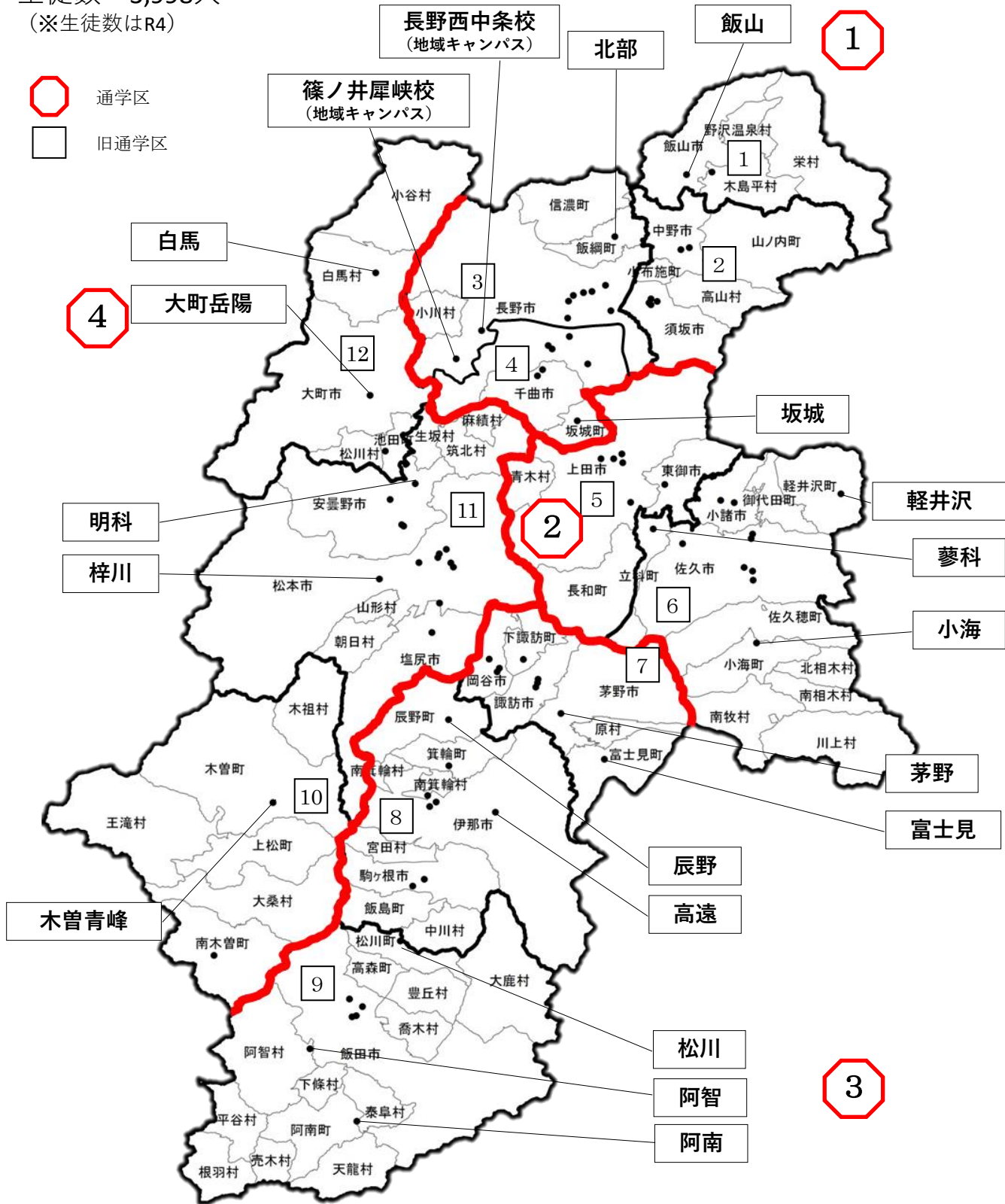
 通学区  
 旧通学区



# 普通科を設置している公立高等学校(中山間地に存立) R5

校数：20校  
 生徒数：3,998人  
 (※生徒数はR4)

高校教育課

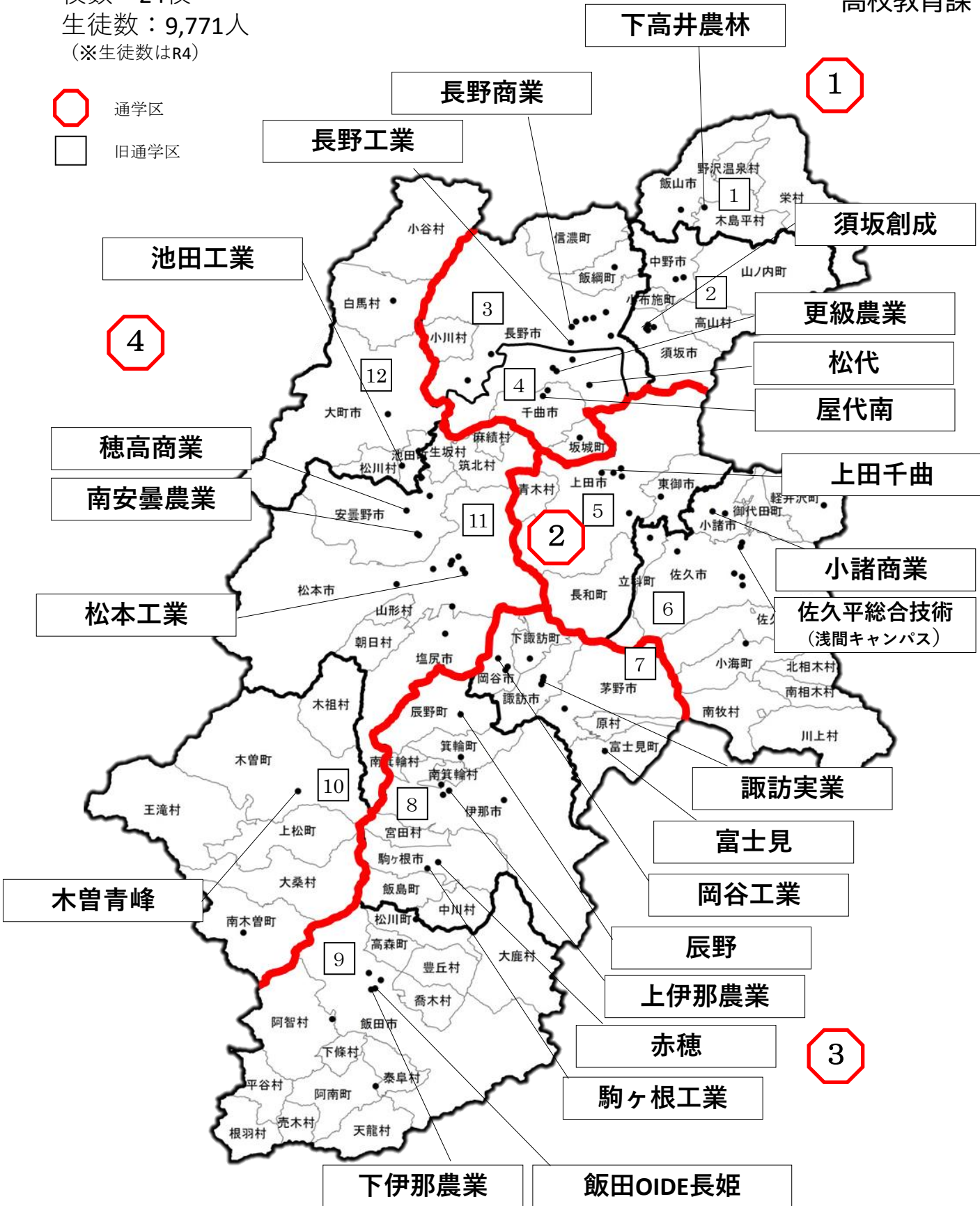


# 専門学科(農業科・工業科・商業科・家庭科)を設置している高等学校 R5 (全日制過程)

校数：24校  
生徒数：9,771人  
(※生徒数はR4)

高校教育課

- 通学区
- 旧通学区



# 農業科を設置している高等学校 R5

高校教育課

校数：9校  
 生徒数：2,747人  
 (※生徒数はR4)

- 通学区
- 旧通学区





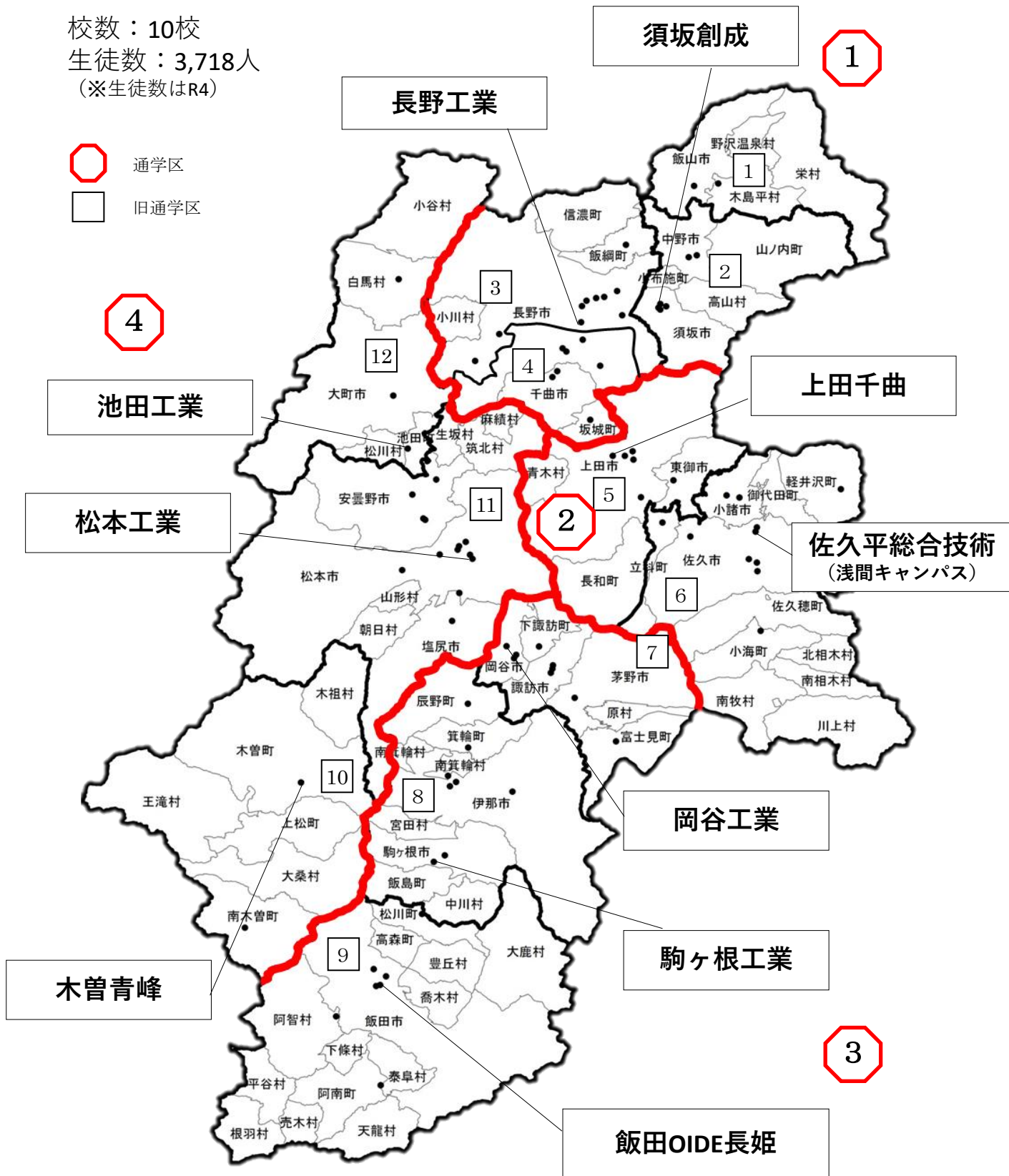


# 工業科を設置している高等学校 R5

高校教育課

校数：10校  
 生徒数：3,718人  
 (※生徒数はR4)

 通学区  
 旧通学区

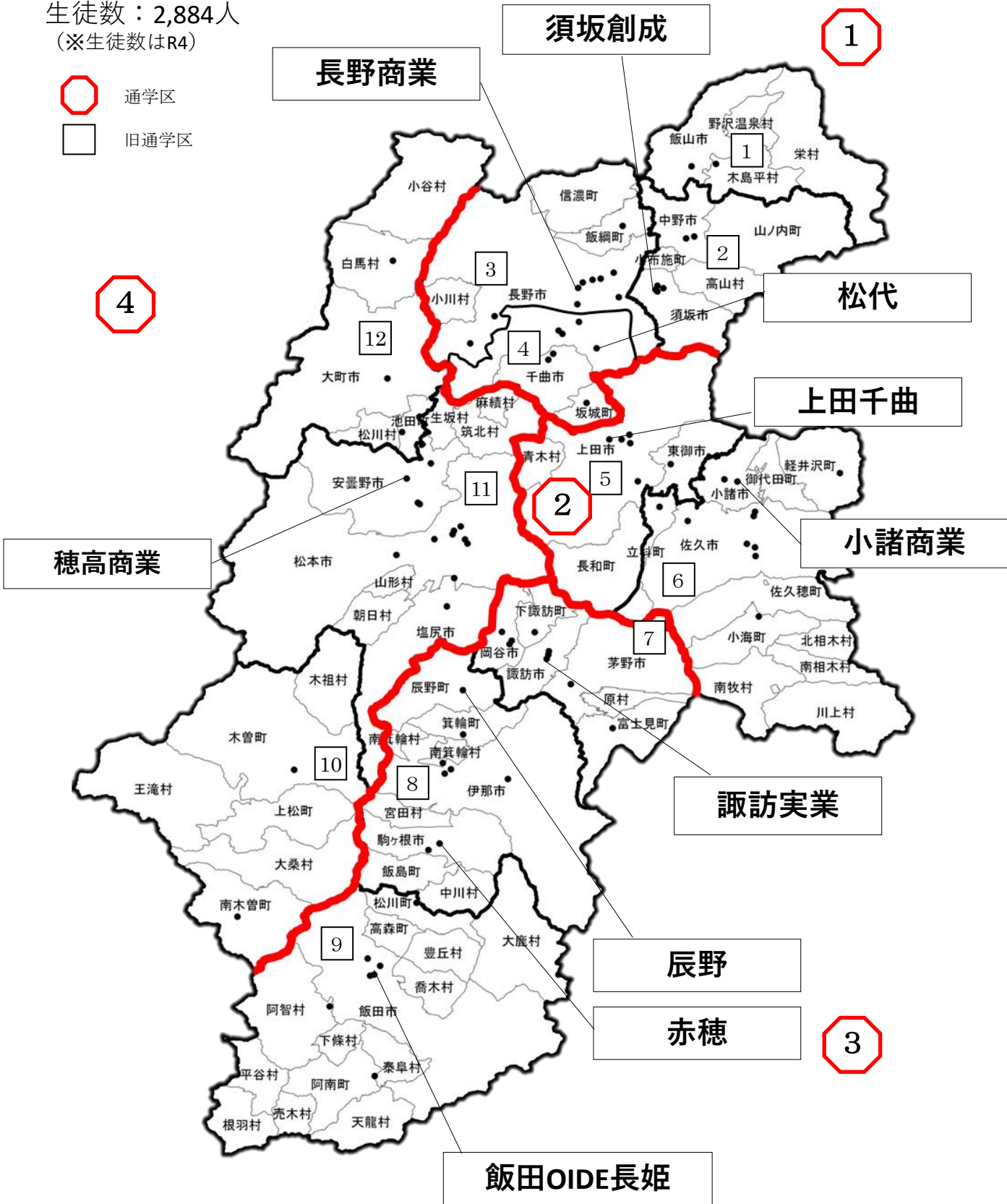


# 商業科を設置している高等学校 R5

高校教育課

校数：10校  
 生徒数：2,884人  
 (※生徒数はR4)

- 通学区
- 旧通学区



# 家庭科を設置している高等学校 R5

高校教育課

校数：3校  
 生徒数：422人  
 (※生徒数はR4)

- 通学区
- 旧通学区

1

4

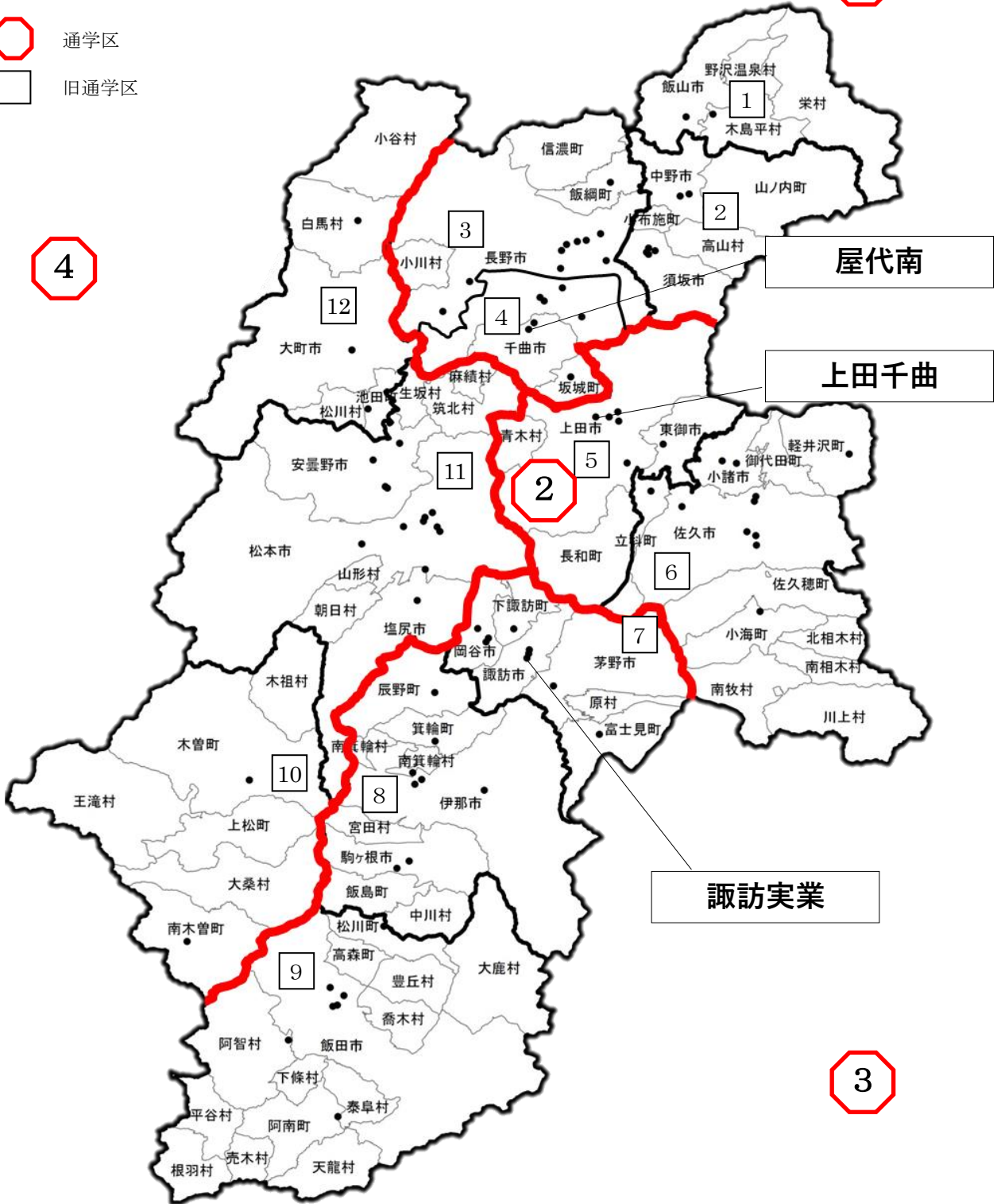
屋代南

上田千曲

2

諏訪実業

3



# 総合学科を設置している高等学校 R5

高校教育課

校数：6校  
 生徒数：2,654人  
 (※生徒数はR4)

- 通学区
- 旧通学区

